JAPAN OPERA FOUNDATION NEWS
JOFニュース
日本オペラ振興会会報
No. 1

JOFニュース（日本オペラ振興会会報）No.1
発行：2006年11月20日
発行元：財団法人 日本オペラ振興会
〒106-8625
東京都港区西麻布4-16-13西麻布28森ビル8F

[公演レヴュー]

ロッシーニ作曲「ランスへの旅」

10月20日・21日・22日　東京文化会館
指揮／アルベルト・ゼッダ　演出／エミリオ・サージ

巨匠アルベルト・ゼッダ指揮のもと、18役総勢36名のソリストが声を競ったロッシーニの異色の傑作「ランスへの旅」。まさにベルカントの饗宴となった会場は喝采と声援の熱気に包まれ、3回公演の幕が降りました。

●公演評抜粋

成功に導いた黒衣の指揮者

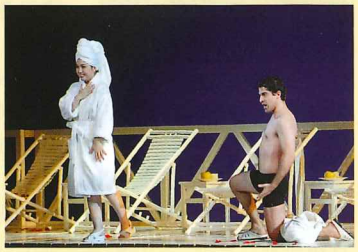
（前略）今回の公演はスター歌手をずらりと並べた顔見せ的性格をもつこの難オペラの、ほぼ模範的演奏だったと言える。まず、役に対して実力不相応と感じさせるキャストがほとんどいない。テノールの小山陽二郎とソプラノの高橋薫子は、ロッシーニ特有の軽やかで装飾的な技巧を完全に身につけている。（中略）だが今回の公演の成功は誰よりも、指揮のゼッダに帰せられねばならないだろう。この職人型指揮者は歌伴奏の極意を知り抜いている。あくまで黒衣に徹し、決して表に出ない。だが声は、常にこれ以上ないくらい気持ちよく流れていく。ある時は歌手を先導し、ある時は立ち止まり、しかし決してせきたてない。歌手も聴衆も最大限にリラックスできるリズムを整えていくのだ。そんなときロッシーニの音楽は、他のどんな作曲家からも味わえない幸福感で聞き手を満たしてくれる。（中略）幕あいのシャンパンの泡に、ロッシーニほど似合う作曲家はいない――心からそう思わせてくれる一夜であった。

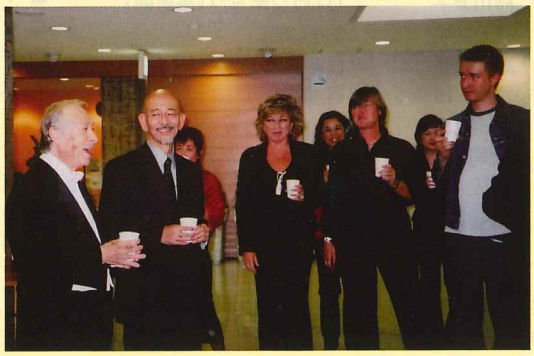
[20日公演／10月26日朝日新聞　岡田暁生氏（音楽学者）]

確かな歌唱技巧際立つ

（前略）となれば関心は必然的に歌手たちの技量に集中する。その意味でほとんど日本人で構成された当夜のキャストは、総じて水準以上の歌唱を披露してくれた。ロッシーニのオペラは歌手に非常に高度な技巧を要求するが、細やかな装飾音の連続をこなせる歌手たちが多かった点が、当夜の成功の要因だ。とりわけ、歌唱の精度はニの次にして性格の造形だけで勝負するような男声歌手が、皆無だったことは特筆される。皆の所持品目録を早口で読み上げる学者ドン・プロフォンド役の久保田真澄が、特に際立っていた。女声では、ハープのみの伴奏で歌う場面が多い即興詩人コリンナ役、高橋薫子が、瑞々しい美声で難技巧を駆使して圧倒的な存在感を示していた。
名匠アルベルト・ゼッダの指揮は表現意欲満々で東京フィルを鳴らし、歌手の声を覆い隠す時もあったが、まさに当意即妙。超絶技巧のフルートを筆頭に、雄弁な演奏で指揮に応えた管弦楽にも拍手を送りたい。

[22日公演／10月31日読売新聞　安田和信氏（音楽評論家）]





22日公演終了後、東京文化会館楽屋にて

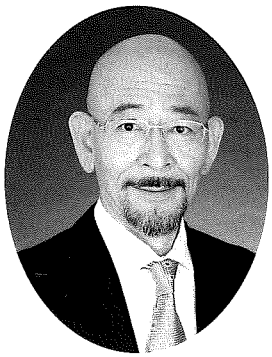
乾杯の挨拶をするアルベルト・ゼッダ氏と岡山公演監督

2007年1月 藤原歌劇団公演

プッチーニ「ラ・ボエーム」

若々しいスタッフ・キャストによる「ラ・ボエーム」にご期待ください

公演監督 **岡山廣幸**



去る10月の公演「ランスへの旅」はおかげさまで成功裡に終わることができました。アルベルト・ゼッダの指揮は歌手たちのみならず、オーケストラのメンバーにまで魔法をかけたごとく会場全体を不思議な空間に変えてしまいました。ロッシーニの奥の深さを改めて認識させられた公演でした。

さて、次回の藤原歌劇団の公演はプッチーニの名作「ラ・ボエーム」です。この作品は当団旗揚げ公演の演目でもあり、個人的にも思い出の多い作品です。イタリア留学時代、ボローニャ音楽院で最初に課題として出されたのがボエームのコッリーネの役で、当時ピアノを持っていなかった私はボローニャの楽器店で一番安いギターを買って音取りをした記憶があります。

今回の公演ではミミとロドルフォを、団員のみならず広く若い逸材を発掘するために一般公募いたしました。厳正な審査の結果、李恩敬（リ・ウンキョン）さんと笛田博昭さんが藤原歌劇団にデビューいたします。この二人は、今年9月に新宿区民オペラでトゥーランドットとカラフで共演しています。李さんの声は、トゥーランドットよりむしろリューに適っているので開演前に楽屋で「あまり力まずに歌ってください」とエールを送ったら「優しいトゥーランドットを演じます」という答えでした。事実、彼女の歌唱は持ち前の美声を生かした無理のない表現で、いままでに聞いたことのないタイプの“姫”でした。笛田さんのカラフは、日本人離れした力強いリリコ・スピントで、いま日本でカラフを歌わせたら3本指に入るでしょう。バリトンのような音色の中間音域から、いっきにアクートに駆け上がる歌唱は爽快感を感じます。この二人の演じるミミとロドルフォに期待します。

一方、初日組には砂川涼子と村上敏明を配しました。砂川涼子は「ランスへの旅」で女流詩人コリンナを演じ、その美声にゼッダ氏も絶賛していました。過去に新国立劇場のプロダクションでミミのアンダーを務めていますが、本公演ではロール・デビューとなります。村上敏明は、一昨年の「ラ・トラヴィアータ」、今年2月の「蝶々夫人」で成功を収め今後に大きな期待を寄せられる屈指の若手テノール。彼の "Che gelida manina" を聴きたいと思うのはわたしだけではないと思います。指揮の園田隆一郎、演出の岩田達宗とも当団デビューとなる逸材で「ラ・ボエーム」にふさわしい若々しいスタッフ・キャストによるニュー・プロダクションにご期待ください。

平成18年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
2007都民芸術フェスティバル助成公演
藤原歌劇団公演

プッチーニ作曲
ラ・ボエーム
オペラ4幕〈字幕付き原語上演〉

公演監督／岡山廣幸

指揮／園田隆一郎
演出／岩田達宗

	1/26,28	1/27
ミミ	砂川涼子	リ・ウンキョン（李恩敬）
ロドルフォ	村上敏明	笛田博昭
ムゼッタ	高橋薫子	佐藤美枝子
マルチェッロ	堀内康雄	谷 友博
ショナール	三浦克次	柴山昌宣
コッリーネ	久保田真澄	田島達也
アルチンドロ	柿沼伸美	
パルピニョール	田代 誠	

ほか

合唱：藤原歌劇団合唱部　児童合唱：多摩ファミリーシンガーズ
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2007年
1月26日（金）18:30
27日（土）・28日（日）15:00
Bunkamura
オーチャードホール
（渋谷東急百貨店本店隣）
＊各日とも開演の50分前から作品解説をいたします。
開場は開演の1時間前です。

特別席 ￥16,000
A ￥13,000
B ￥10,000
C ￥7,000
D ￥5,000
E ￥2,000

＊特別席～C席は各席1500円の学生割引があります。日本オペラ振興会チケットセンターまでお問い合わせください。学生割引は日本オペラ振興会チケットセンターでのみお取り扱いし、同チケットセンターではE券のお取り扱いはございません。

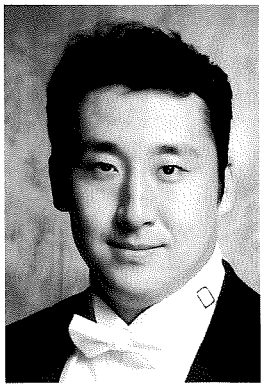
主催：財団法人日本オペラ振興会・社団法人日本演奏連盟

「作りすぎず真に迫る演技を心がけ、声で観客を魅了できるよう努力して参ります!」

砂川涼子(ソプラノ)
Ryoko Sunakawa
ミミ (1/26,28)

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第10回(財)江副育英会オペラ奨学生として2001年から2年間イタリアに留学。五島記念文化財団の奨学生として05年より再度1年間イタリアに留学。1998年第34回日伊声楽コンコルソ優勝、2000年第69回日本音楽コンクール第1位、06年第12回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞受賞。確かなベルカント唱法を身に付けた逸材として注目され、2000年新国立劇場小劇場シリーズ「オルフェオとエウリディーチェ」のエウリディーチェでオペラ・デビュー後、藤原歌劇団に01年「イル・カンピエッロ」のガスパリーナでデビューし、新国立劇場では「トゥーランドット」のリュー、「ドン・ジョヴァンニ」のツェルリーナ、「ドン・カルロ」の天よりの声、「カルメン」のミカエラに出演して絶賛を博し、03年の「ホフマン物語」では最終公演でアントニアの代役出演で成功を収めた。その後も藤原歌劇団で「イル・カンピエッロ」のニューゼ、新国立劇場公演で「ホフマン物語」のアントニア、「魔笛」のパミーナ、東京交響楽団「トゥーランドット」のリューなどに出演。その他、各種コンサートでも活躍し、02年NHKニューイヤー・オペラコンサート初出演、04年浜離宮朝日ホールで初リサイタル開催。10月公演「ランスへの旅」ではコリンナで絶賛を博している。確実にキャリアを築き、今後のさらなる活躍が期待される。平成17年度第16回五島記念文化賞新人賞受賞。藤原歌劇団団員。

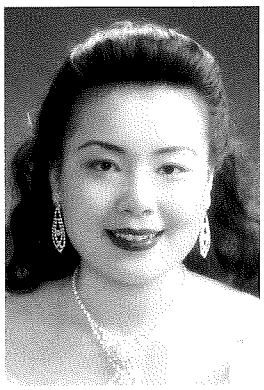
「理想のロドルフォ像を求め、現在イタリアで勉強中です。ご期待ください」



村上敏明(テノール)
Toshiaki　Murakami
ロドルフォ (1/26,28)

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。2001年から2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアのボローニャに留学。04年秋より1年間五島記念文化財団奨学生としてイタリアに留学。多くの国際コンクールで優勝ならびに上位入賞を果たす。国内でも、04年の第40回日伊声楽コンコルソ優勝など上位入賞多数。藤原歌劇団には1999年3月「ラ・ボエーム」のパルピニョールでデビューし、同年12月には新国立劇場に藤原歌劇団共催「蝶々夫人」の神官でデビュー。海外留学後、02年オルヴィエートのマンチネッリ劇場での「リゴレット」のマントヴァ公爵でイタリア・デビューを果たす。フェッラーラで「蝶々夫人」のピンカートン、ボローニャで演奏会形式「イル・トロヴァトーレ」のマンリーコなどに出演し、特に後者はイタリア国営放送でラジオ放送され反響を呼んだ。05年3月にはボローニャのテアトロ・ドゥーゼでの「ナブッコ」のイズマエーレで好評を博した。05年1月の藤原歌劇団「ラ・トラヴィアータ」でアルフレードに抜擢されて成功を収め、続いて同年8月「アドリアーナ・ルクヴルール」の修道院長、06年2月「蝶々夫人」のピンカートンと活躍を続けている。2002年にロヴェレートのG.ヴェルディ協会より、C.コロンバーラとともにヴェルディ記念賞受賞。第15回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。ボローニャ在住。藤原歌劇団団員。

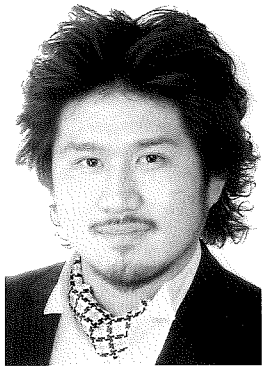
「大好きなミミ役での藤原歌劇団デビューに心が弾みます。ご声援ください!」



リ・ウンキョン(李恩敬)(ソプラノ)
Eun Kyung Lee
ミミ (1/27)

韓国の嶺南大学の声楽科卒業後来日し、武蔵野音楽大学卒業。その後ヨーロッパに留学。各地でレナータ・スコット、マグダ・オリヴェロ、モンセラット・カバリエ、エレナ・オブラスツォワ諸氏のマスタークラスで研鑽を積む。東京芸術大学大学院オペラ科修士課程修了。現在同大学院博士課程在籍中、プッチーニの音楽ならびに「蝶々夫人」を中心とした発声法と表現について研究している。1994年ボリショイ・オペラ劇場にて「道化師」のネッダでデビュー後、スペイン、イタリア、オーストリア、ロシア、ポルトガル等で活躍する。国内外の国際声楽コンクールで上位入賞多数。2005年8月サイトウ・キネン・フェスティバルの一環で行われた小澤征爾指揮「フィガロの結婚」ではスザンナを歌い好評を博した。その他、「天国と地獄」のダイアナ、「ラ・ボエーム」のミミ、「ラ・トラヴィアータ」のヴィオレッタ、「イル・トロヴァトーレ」のレオノーラ、「ドン・ジョヴァンニ」のドンナ・エルヴィラ、「蝶々夫人」の蝶々夫人、「カヴァレリア・ルスティカーナ」のサントゥッツァ、「トゥーランドット」のリューならびにトゥーランドットまで幅広いレパートリーを持つ。オブラスツォワ女史より「幻想的な声の歌姫」と言われ、豊かな低音と透きとおる高音が大きな魅力である。

「難しい役所ですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします」



笛田博昭(テノール)
Hiroaki Fueda
ロドルフォ (1/27)

今回の「ラ・ボエーム」キャスティング・オーディション合格により、今回藤原歌劇団にデビューする新進テノール。
1978年生まれ。名古屋芸術大学声楽科首席卒業、同大学大学院修了。第37回イタリア声楽コンコルソ、イタリア大使杯受賞。中島基晴氏に師事。
これまで名古屋を拠点として活動し、2003年名古屋芸術大学主催「トゥーランドット」のカラフ、05年熊本シティーオペラ主催「蝶々夫人」のピンカートン、06年粟國淳演出「カルメン」のドン・ホセ、同年浜松市民オペラ主催「カヴァレリア・ルスティカーナ」のトゥリッドゥに出演。ホールオペラでは06年熊本シティーオペラ主催の「イル・トロヴァトーレ」のマンリーコ、演奏会形式で03年、エウロ・リリカ主催「運命の力」のドン・アルヴァーロ、2004年「ドン・カルロ」のドン・カルロ、05年「リゴレット」のマントヴァ公爵などに出演している。2004年、愛知県文化振興事業主催の「オペラ・フォーエヴァー」(オペラ新星発見)に出演。2004年にセントラル愛知交響楽団によるベートーヴェン「第九」のソリストを務める。
本格的オペラ活動が始まり、今後の活躍が期待される。

「ラ・ボエーム」を指揮する若きマエストロ

interview

指揮——

園田隆一郎

楽譜に忠実に、そして情熱をもって

藤原歌劇団へはもちろん、今回が本格的オペラ・デビューとなる園田隆一郎さん。学生時代から、オペラ指揮で名高いイタリアの巨匠ジャンルイジ・ジェルメッティ氏の薫陶を受け、現在も氏のアシスタントとしてローマを中心にオペラ活動をしている若手指揮者です。生身の人間を相手とするオペラでは、劇場現場で積み重ねた経験は、指揮者にとって大きな武器でもあります。数多くのプロダクションで体得してきた知識とオペラへの情熱を持つ園田さんに、今回の公演に向けての思いをうかがいました。

——オペラ・デビュー公演への抱負を聞かせてください

まずこのような素晴らしいデビューの機会を与えて下さったことに本当に感謝しています。その感謝の気持ちをあらわすためにも、今まで学んできたこと、経験したことをすべて出し切りたいと思っています。特にプッチーニはロッシーニとともに私の最も尊敬する作曲家ですし、私のイタリアでの先生であるジェルメッティが得意としているレパートリーでもあり、これまでにも彼の指揮するプッチーニ作品に何度も携ってきました。

今年の8月にはシエナでプッチーニのもうひとつの代表作である「トスカ」全曲を指揮するという機会にも恵まれ、「ラ・ボエーム」に対してもより具体的なヴィジョンを持てるようになりました。

——「ラ・ボエーム」という作品についてどのように？

ロッシーニやドニゼッティ、ヴェルディらと比べて作品数の少ないプッチーニのオペラはそれだけ推敲が重ねられ、例えば台本やオーケストレーションの細部にもかなりのこだわりが見られます。ここまで細かく書かれた作品である以上、もう私たちに出来るのは彼の意図を汲み取り楽譜に忠実に、そして「情熱」を持って演奏することだけです。指揮者の「我」を押し付ける演奏ではなく、「ラ・ボエーム」という作品自体の素晴らしさを感じていただけるような演奏であるべきです。

そしてプッチーニのオペラでは、細部に気を配りつつも大きな流れでドラマを捉えることが大切だと思います。第1幕の冒頭から一人の少女の静かな死までの2時間の物語を力強く運んでいきたいです。

——ジェルメッティ氏はどんな先生ですか？

大学の指揮科に入学したものの、当時の私にとって「指揮者」というのはあまりに遠い漠然とした目標でしかなかっと思います。そんな時、ジェルメッティ先生との出会いが私にとって決定的でした。初めて海外の講習会に参加し、彼のレッスンを受けた時に「私はこの人のもとで勉強するんだ！」とすぐに思いました。偉大な先生、有名な先生はたくさんいますが、重要なのは自分に合った先生を見つけることだと思います。私にとっては、まさにそれが彼でした。

最初は一人の生徒として彼のリハーサルを見学することからスタートし、今ではいくつかのリハーサルを任せてくれるようになりました。実際にオペラを作っていく現場で経験を積みながら色々と学んできたことを、今後は自分の指揮者としての活動に生かしていきたいと思います。

園田隆一郎（指揮）　Ryuichiro Sonoda

1976年東京生まれ。今回がオペラ指揮デビューとなる若手指揮者。東京芸術大学指揮科卒業、同大学大学院修了。故遠藤雅古、故佐藤功太郎、ジェイムズ・ロックハートの諸氏に師事。大学4年生の2000年にイタリア、シエナのキジアーナ音楽院の指揮コースに参加、ジャンルイジ・ジェルメッティ氏のもとで学ぶ。2002年から大学院を1年間休学し、文化庁派遣芸術家在外研修員としてローマに留学。大学院修了の04年から野村国際文化財団の奨学生として、05年からは五島記念文化財団の奨学生としてローマで研鑽を積んでいる。

藤原歌劇団ではこれまで「アルジェのイタリア女」で副指揮として公演に参加し、その後はローマで学びながら、ローマ歌劇場での「ラ・ボエーム」「タンクレディ」「セミラーミデ」「フィガロの結婚」、マドリッド王立劇場での「セビリアの理髪師」など多くのプロダクションでジェルメッティ氏のアシスタントを務めている。今夏はキジアーナ音楽院の夏期指揮コース修了コンサートで「トスカ」全曲を指揮して大成功を収め、新聞評でも絶賛された。

2004年にシエナ・ロータリークラブよりカルロ・コルシーニ賞受賞。2005年第16回五島文化記念オペラ新人賞受賞。ローマ在住。

園田隆一郎さん、シエナでの「トスカ」が絶賛！

さる8月26日、シエナのサンタゴスティーノ教会で行われたキジアーナ音楽院の夏期指揮コース修了コンサートで「トスカ」全曲を指揮した園田さん。その模様はいくつかの地元紙でも報じられて高い評価を得ました。

TOSCA Applausi scroscianti al direttore giapponese e ai cantanti per la brillantissima esecuzione

Sonoda, saggio da... maestro

di **David Toschi**

SIENA — «Un tal baccano in chiesa», avrebbe gridato chi fosse entrato in Sant'Agostino sabato sera al termine del saggio della classe di direzione di Gianluigi Gelmetti. Perché il successo ottenuto dalla Tosca eseguitavi è andato oltre le più rosee previsioni, suscitando entusiasmo e fragore ai massimi livelli.

Saggio di direzione d'orchestra dei corsi estivi dell'Accademia chigiana si diceva, e prova d'opera per il giapponese Ryuichiro Sonoda (nella foto), prescelto per condurre in porto un'operazione originale e azzardata che non ha precedenti nel panorama chigiano ma anche, a conoscenza mia, italiano.

L'allievo dirige quindi, e lo fa in una chiesa trasformta in Sant'Andrea per l'occasione, sfruttata in lungo e largo dal talentuoso Gelmetti, che insegna come anche in uno spazio improvvisato si possa impostare uno spettacolo che dà filo da torcere ad altri collaudati e realizzati in allestimenti appositi. I cantanti, c'è da dirlo, erano bravi, ma se a recitar s'insegna loro in questo modo, resta da aggiungere che erano pure attori consumati. Gelosia, tradimento, seduzione e sensualità si svolgono, «innanzi la Madonna», consumandosi in gesti, sguardi e versi che descrivono il potente affresco di fede e potere schizzato da Sardou, disegnato da Illica e Giacosa e colorato da Puccini. Fin dall'attacco del primo atto si capisce che l'Orchestra di Sofia, ben preparata dal suo conduttore stabile Alipi Naydenov, non risentirà particolarmente del debutto al podio. Ryuichiro Sonoda tiene la parte e, seppur poco osservato dai professori, quando sbirciato ha il gesto pronto, chiaro: batterne e levare sono netti e le arcate, a delineare gli ampi cantabili, ricordano il gesto del miglior Gelmetti. Fanno benissimo con lui anche i cantanti: da Olga Zubravel, Tosca a Ivan Momirov, Caravadossi. A connotare trionfalmente la serata ci ha pensato poi Silvio Zanon, giovane baritono veneziano che ci ha proposto uno dei migliori Scarpia ascoltati in quest'ultimo decennio. In questi giorni si svolgeranno gli ultimi saggi dei Corsi estivi della Chigiana e riprenderanno i lavori di ristrutturazione del Teatro dei Rinnovati. Ve ne daremo conto con dovizia di particolari nei giorni prossimi, auspicando un futuro musicale luminosissimo per una città che è sì conosciuta nel mondo per i suoi tanti capolavori artistici e per il Palio ma che, è bene ricordare, ha nell'Accademia musicale chigiana e nei suoi allievi i suoi principali ambasciatori.

Chigiana, allievi ancora sul palco

SIENA — Doppio appuntamento coi concerti degli allievi dei corsi di alto perfezionamento della Chigiana. Stasera a palazzo Chigi Sunciini gli studenti che hanno seguito le lezioni di viola di Bruno Giurana e quelle di violino di Salvatore Accardo. I primi alle 17,30, saranno gli allievi di Giurana, alle 21.15 quelli del corso di violino tenuto da Salvatore Accardo.

トスカ：輝かしい演奏をした日本人指揮者と歌手たちに対する盛大な拍手

園田、マエストロ級の成果発表会

by David Toschi

シエナ——「教会でこの騒ぎは何事か！」もしこの土曜日にG.ジェルメッティのクラスの演奏会が行われていたサンタゴスティーノ教会に入った人がいたなら、そう叫んでいただろう。なぜならその日の「トスカ」の成功は期待していたよりもはるかに大きく、その最高のレヴェルに対して熱狂と大歓声を引き起こしたからだ。

夏期コースを持つキジアーナ音楽院における指揮コースの演奏会ということなのだが、彼らはこのオペラ「トスカ」を成功に導くために一人の日本人・園田隆一郎（写真）を選ぶという、キジアーナの古い歴史にも前例のない、私の知る限りでも前例のない試みに挑戦した。（後略）

—— 8月30日付・伊『LA NAZIONE』紙

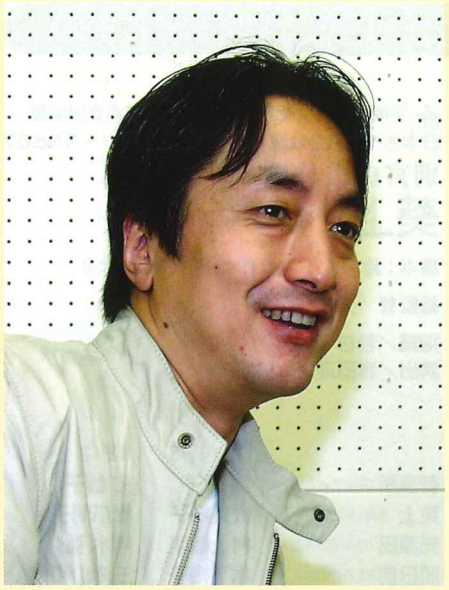
「葵上」(12月)「ラ・ボエーム」(1月)── 2作品を連続して演出

message

演出──

岩田達宗

12月の日本オペラ協会「葵上」、1月の藤原歌劇団「ラ・ボエーム」と、日本オペラ振興会で連続して2つの作品を演出をすることになった岩田達宗さんは、売れっ子のオペラ演出家として現在もっとも多忙な活動をされている若手です。日本オペラ協会には「キジムナー時を翔ける」、「たそがれは逢魔の時間」&「三人の女達の物語」に続いて3回目の登場。藤原歌劇団では今回がデビューとなります。2つの作品の演出コンセプトを寄せていただきました。



岩田達宗（演出）　Tatsuji Iwata
神戸市出身。東京外国語大学フランス語学科卒業。劇団「第三舞台」を経て、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に参加。オペラの舞台制作にかかわる。1991年より栗山昌良氏に演出助手として師事。96年湘南台市民シアターでの「霊媒」で演出家デビュー。同年、五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、五島記念文化財団奨学生として98年より2年間、ドイツ、イギリスを中心にヨーロッパ各地を遊学、研鑽を積む。
帰国後、日生劇場、新国立劇場、びわ湖ホール、日本オペラ協会、コレギウム・ムジクム、藤沢市民オペラ、神戸市演奏協会、広島オペラルネッサンスなど各地のオペラ・プロダクションで作品を発表し、高い評価を得る。なかでも2003年堺シティオペラでのプッチーニ3部作、05年いずみホールでのプーランク「カルメル会修道女の対話」は、共にその年の音楽クリティッククラブ賞、大阪府舞台芸術大賞などを受賞。その他、ソプラノ佐藤美枝子とのコンビによるモノオペラ「幻想のルチア」、尾崎比佐子プロデュースによる「ロメオとジュリエッタ」では河原忠之のピアノによる少人数の実験的な小劇場オペラの構成と台本も担当。オペラの台本も手がけ、特に作曲家松井和彦との協働作業による実験オムニバスオペラ「英雄達のクライマックス」では大きな成功を収めている。
最近の主な演出作品は、03年より始まったザ・カレッジ・オペラハウスの「モーツァルトシリーズ」、釜洞裕子プロデュースによるいずみホール「春琴抄」「セビリアの理髪師」、びわ湖ホール「ジプシー男爵」、愛知万博開催記念オペラ「白鳥」など。

「葵上」
人間の存在の奥深くに眠る根源的な激しいドラマ

この曲は、初演時のパンフレットに寄せられた作曲者別宮貞雄氏の言葉によると、平安朝の絵巻物の再現をオペラという形式を借りて行う、というような目的の下に書かれてはいないそうだ。特定の時代の風俗を描くことが目的となってないけない、普遍的な人間のドラマなんだ、と強い口調で氏は述べておられる。

僕はこのオペラのスコアを一読し、その上で上記のような氏の意図を知り、激しく共感した。

その共感に導かれて僕なりに得た確信とは、このオペラの世界は特定の時代風俗の中の人間ドラマというよりはほとんど神話に近い、ということだ。人間の存在の奥深くで眠っている根源的な「生きる力」がもたらすところの恐ろしいまでに激しい闘争の劇。これは平安朝の絵巻物というより、ギリシャ悲劇か、夢幻能の世界ではないか。

僕の今回の演出は氏の意図を激しく踏襲するものになろう。

「ラ・ボエーム」
無残な青春時代だけが持ちえる清冽な空気

僕のように皮肉れた演出家は、青春というのは無残だ、と信じている。そうじゃない青春を送った奴なんて居るのだろうか？　まあ居るんだろうな……。

このオペラに登場する青春は無残だ。当然である、原作は強烈なまでの青春の無残な有様の展覧会だ。

「芸術家」などという馬鹿馬鹿しいくらいに胡散臭い言葉を身にまとって、自由を選択した若者達の生き様は、無責任で、優柔不断で、自分勝手で、身の程知らずだ。挙句の果てに惚れた女が病気で死にかけている時に薬のひとつも買ってやれないほど惨めでみっともないものだ。

しかし無残な青春の現実の向こう側に広がるのは、青春時代を通り過ぎてしまった全ての者には二度と取り返しのつかない、ある清冽な空気である。

この一点において、青春は美しい。その美がもたらす哀しみは何物にも変えがたいほど甘く切ない。

このオペラで描かれているのは本物の青春だ。このオペラの美しさは青春の美しさそのものだ。

光と影の強烈なまでのコントラストの照明、荒々しいフォービズム風の書割によって構成される大胆な美術、モノクロームに近い透明感のある色彩によって、無残な青春時代だけが持ちえる、この清冽な空気をオーチャードホールに実現しようと思っています。

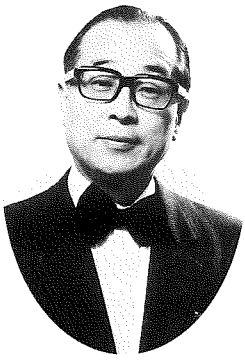
「葵上」稽古中の岩田達宗さん。
「原作の『源氏物語』に限定された世界ではなく、普遍的な人間のドラマを、"オペラ"を演じましょう」と、熱っぽい指導がつづいた。

2006年12月 日本オペラ協会公演

別宮貞雄「葵上（あおいのうえ）」

凄まじい情念を描いた名作を待望の改訂版初演でお届けします

総監督 **大賀 寛**



「葵上」は源氏物語の「葵上」「賢木」による鈴木松子台本・別宮貞雄作曲のオペラです。時代・様式にとらわれることなく、御息所を通してすさまじいまでの人間の情念をテーマに描いた作品で、昭和53年度文化庁第1回「舞台芸術創作奨励特別賞」を受賞しています。1981年7月、財団法人日本オペラ振興会設立記念公演として、指揮・渡邉曉雄、演出・武智鉄二により初演され好評を博しました。武智演出は、作曲意図を踏まえつつも時代考証を考慮したもので、葵祭りの絢爛な行列も話題になりました。

初演後ただちに再演をふまえ、葵上の存在感を確かなものとするためにアリアの挿入、横川聖の演奏上の問題となった音域の改訂、その他細部にわたっての手直しを依頼したのですが、上演機会を得ず、今回が改訂初演となります。

今回は幸いにも指揮に大御所の若杉弘氏の賛同を得、演出は、これまでにもたびたび作品への深い洞察から意欲・魅惑に満ちた舞台を形象していただいた岩田達宗氏に依頼、作曲意図の明確な舞台形象をと願っています。

キャストは実績あるベテランに加え、オーディションにより多くの新人も起用しています。

高貴で人望を集めている御息所の、独占欲・嫉妬、それを劫としての悩み・苦しみ。なぜかまず郡愛子さんの顔が浮かびました。自然体で誰からも愛され、行動は奔放のようでしかし実は思慮深い。その豊かな人生体験と人柄に思いを託しています。庄智子はオーディションでは葵上を希望していましたが、中音の安定感、キャラクターからこの大役に起用しました。演奏に対する真摯な姿勢に年齢を越えての舞台の確立を願っています。

光源氏には、これまで常に期待を越える成果をあげ、日本オペラの公演には欠かせぬ持木弘、女の情念に対し男としての思い・存在感をどのように表現してくれるか期待しています。村上敏明はすでに藤原歌劇団で活躍していますが、日本オペラへの意欲も聞いており、今回その機会を得ることができました。これを機にさらに幅広いオペラ活動を期待しています。

源氏の正妻でありながら、プライドが高く、年上であるというコンプレックスからか源氏に対して素直になれぬ思いに悩む葵上には、「夕鶴」などで主役を務めてきた大貫裕子、オーディションで成長を示してくれた橋爪明子を起用しています。

その他、照日前、横川聖をはじめ、多数のキャストを要し、全員が観客動員に協力し、意欲的なステージを意図しています。

「葵上」稽古風景

郡 愛子

大貫裕子

庄 智子

橋爪明子

平成18年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
日本オペラ協会公演　日本オペラ・シリーズNo.67

別宮貞雄 作曲

葵上 オペラ3幕〈改訂版〉

脚本：鈴木松子　原作：「源氏物語」より

総監督／大賀 寛

指揮／若杉 弘
演出／岩田達宗

	12/1, 3	12/2
御息所（みやすどころ）	郡 愛子	庄 智子
葵上（あおいのうえ）	大貫裕子	橋爪明子
光源氏（ひかるげんじ）	村上敏明	持木 弘
照日前（てるひのまえ）	木下裕子	三津山和代
横川聖（よこかわのひじり）	井上白葉	鴨川太郎
家臣	中村 靖	馬場眞二

侍女1	佐藤恵利
侍女2	比嘉千子
侍女3	高波礼子
侍女4	山田真里
女房1	府川直子
女房2	藤川尚美
女房3	川嶋早苗
女房4	佐藤三穂
前駆1	清水一皓
前駆2	和田ひでき
前駆3	岡山 肇
前駆4	脇坂 和
前駆5	堀内士功
前駆6	安東玄人
随臣1・行者	三浦大喜
随臣2・行者	真鍋 裕
随臣3・行者	東 玄彦
随臣4・行者	西村朝夫
町女1	座間由恵
町女2	丸山栄子
町女3	山田育子
町女4	尾崎千鶴
町女5	白神晴代
町女6	小林悦子
町女7	松島みか
町男1	華山賢治
町男2	宮本 力
町男3	平岡 基
町男4	相沢 創
女行者1	鈴村鮎子
女行者2	西野郁子

管弦楽：東京ニューフィルハーモニック管弦楽団

2006年
12月1日(金)18時30分／2日(土)・3日(日)15時
めぐろパーシモンホール
（東急東横線都立大学駅徒歩7分）

S ¥12,000　A ¥10,000
B ¥8,000　C ¥5,000

＊日本オペラ振興会ではC券はお取り扱いいたしません。

主催：財団法人日本オペラ振興会
共催：財団法人目黒区芸術文化振興財団

財団法人日本オペラ振興会　鑑賞会員
JOFアミーチ・デル・テアトロ・リリコ
募集再開のお知らせ

日本オペラ振興会が主催するすべてのオペラ公演とコンサートが鑑賞でき、さまざまな特典もある大変お得な日本オペラ振興会の年間鑑賞会員〈JOFアミーチ会員〉は長らく新規受付を中断しておりましたが、このたび新規募集を再開することになりました。

それに伴い、〈さくらシート〉会員の名称で親しまれてきた藤原歌劇団のみの年度別鑑賞会員は〈藤原プレミアムシート〉会員と名称を変更します。

■JOFアミーチ・デル・テアトロ・リリコ会員
入会申込受付：随時
年会費：特別会員　1口＝10万円　A会員　1口＝7万円
[特別会員]
当振興会が主催する藤原歌劇団および日本オペラ協会のオペラ公演、コンサートにご招待（1口につき特別席2枚）
[A会員]
当振興会が主催する藤原歌劇団および日本オペラ協会のオペラ公演、コンサートにご招待（1口につきA席2枚）
〈特典〉
1. オペラ公演のGP見学
2. バックステージ見学
3. プログラム券進呈
4. 所属歌手との交流会
5. 日本オペラ振興会会報JOFニュースの送付
6. 主催オペラ公演1割引（2枚まで）

■藤原プレミアムシート会員（旧さくらシート会員）
特別席S会員　A席A会員　B席B会員
年会費（後日発表）は各入場券の一般発売価格から10％割引き
特典はJOFアミーチ・デル・テアトロ・リリコ会員と同様です。

[詳細のお問い合わせ・資料のご請求]
日本オペラ振興会チケットセンター ☎03-5466-3181

《今後の日本オペラ振興会主催オペラ公演予定》
[藤原歌劇団]
ヴェルディ作曲「リゴレット」オペラ3幕　字幕付き原語上演
平成19年5月25日・26日・27日　東京文化会館
プッチーニ作曲「蝶々夫人」オペラ2幕　字幕付き原語上演
平成19年11月17日・18日　テアトロ・ジーリオ・ショウワ（新百合ヶ丘・昭和音楽大学講堂）
[日本オペラ協会]
水野修孝作曲「美女と野獣」オペラ2幕
平成20年1月予定

財団法人日本オペラ振興会〈藤原歌劇団・日本オペラ協会〉
平成18年度　オペラ歌手育成部　募集
オペラ専門教育機関
～将来オペラ歌手として舞台を目指すフレッシュな人材を募集します～

[研究生]
～本格的なオペラ歌手を育成します～
オペラ専門コースI
オペラ専門コースII
オペラマスターコース
●修業年限　1年～3年
●入所検定料　38,000円（併願料5,000円）
●願書受付期間
[第一次募集]
平成18年12月1日（金）～平成19年1月30日（火）
[第二次募集]
平成19年2月9日（金）～平成19年3月16日（金）
●選抜試験日
[第一次募集]
平成19年2月3日（土）歌唱試験／4日（日）面接試験
[第二次募集]
平成19年3月20日（火）歌唱試験／21日（水）面接試験

[選科生]
～楽しみながら、本格的な声楽を学びます～
声楽基礎コース
声楽専攻コース
●修業年限　1年
●受験検定料　28,000円（併願料5,000円）
●願書受付期間、選抜試験日、試験会場については研究生募集に準ずる

＊受験資格・試験科目等詳細は下記へお問い合わせください。
募集要項および志願書は、ご請求いただければ郵送いたします。
[お問い合わせ先]
財団法人日本オペラ振興会　オペラ歌手育成部（午前10時～午後6時）
〒215-0004　神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6
昭和音楽芸術学院内
TEL044-953-6411　FAX044-953-8693
説明会を2回、日本オペラ振興会にて実施します。
第1回　平成18年12月7日（木）・第2回　平成19年2月7日（水）

【チケットセンターからのお知らせ】
日本オペラ振興会チケットセンターでのご予約の場合、チケット代のお支払いは従来の銀行振り込み等のほかに、NICOS、VISA、MASTER、JCB、AMEXカード（オンライン予約はNICOS、VISA、MASTERのみ）のご利用が可能です。
入場券のご予約には、手軽で便利なクレジットカード決済を今後ともどうぞご利用ください。

日本オペラ振興会チケットセンター
☎03-5466-3181
FAX 03-5466-3186
オペラ公演オンライン予約　http://www.jof.or.jp

お客様との親睦も深まる懇親パーティ、楽しく賑やかに

日本オペラ振興会では、毎年、藤原歌劇団団員・日本オペラ協会会員による懇談会、懇親パーティを開催しておりますが、今年は、お客さまとの親睦を深めるため新しい試みとして、懇親会パーティに個人賛助会員、ＪＯＦアミーチ・デル・テアトロ・リリコ会員、さくらシート会員の皆様にもご出席いただきました。

[9月1日ホテルフロラシオン青山にて]

乾杯の挨拶をする
伊藤周男理事

おなじみヴェルディ「乾杯の歌」は
安達さおりと持木弘のデュエットで

今年度新人のお披露目も

テノールのメンバーが勢揃いして、五十嵐喜芳常任理事の指揮で「オ・ソレ・ミオ」を熱唱

藤原歌劇団公演案内　公演監督／岡山廣幸

細やかな情緒が心に沁みる日本の美の粋を極めた「蝶々夫人」

平成18年度文化庁芸術拠点形成事業
神奈川県民ホール主催オペラ

蝶々夫人　プッチーニ作曲
オペラ2幕〈字幕付き原語上演〉

指揮／菊池彦典
演出／粟國安彦

蝶々夫人	佐藤ひさら
ピンカートン	持木 弘
シャープレス	牧野正人
スズキ	森山京子
ゴロー	小宮一浩
ボンゾ	若林 勉
ヤマドリ	雨谷善之
神官	坂本伸司
ケイト	小林厚子

蝶々夫人（第1幕）

合唱：藤原歌劇団合唱部
管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団

2007年 **2月25日(日) 15:00**
神奈川県民ホール

S ¥12,000　A ¥9,000　B ¥7,000
C ¥5,000　D ¥3,000　学生 ¥2,500

主催・お問い合わせ：
神奈川県民ホール☎045-633-3797

アルベルト・ガザーレ

イタリアの貴公子、アルベルト・ガザーレ 6年ぶりの藤原歌劇団登場

ヴェルディ中期の傑作　久々の上演!

リゴレット
オペラ3幕〈字幕付き原語上演〉

指揮／リッカルド・フリッツァ
演出／ニコラ・ジョエル

	5/25, 27, 6/3	5/26
リゴレット	アルベルト・ガザーレ	堀内康雄
マントヴァ公爵	エマヌエーレ・ダグアンノ	平尾憲嗣

	5/25, 27	5/26, 6/3
ジルダ	高橋薫子	佐藤美枝子
スパラフチーレ	彭 康亮	ナム・ワン（南完）
マッダレーナ	森山京子	鳥木弥生
モンテローネ伯爵	東原貞彦	党 主税
ジョヴァンナ	向野由美子	渡辺新和
マルッロ	柴山昌宣	柿沼伸美
ボルサ	小山陽二郎	石川誠二

ほか

合唱：藤原歌劇団合唱部
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2007年
5月25日(金)・26日(土)・27日(日)
東京文化会館
6月3日(日)
神奈川県民ホール

＊詳細は後日発表させていただきます

主催・お問い合わせ：日本オペラ振興会☎03-5466-3181